

生ごみの資源化処理に伴うコスト比較

参 考 資 料 3
全 員 協 議 会
ク リ ー ン セ ン タ ー ・ 環 境 課
令 和 5 年 3 月 3 日

○現在の可燃ごみ（週2）分別の事業費
（令和3年度実績）

事業種目	A:可燃ごみ (週2) 円/年	内訳
職員給与費	116,435,488	収集の件数費
ごみ収集事業	18,166,192	収集の車両経費、消耗品等
クリーンセンター運営事業	9,543,496	収集の会計年度任用職員
可燃ごみ搬出事業 ※1	5,658,948	焼却施設の搬出用クレーン 点検・修繕・消耗品費
処理費	222,713,036	可燃ごみ処理 (資本費、処理費、10t 車両運搬費)
	0	生ごみ処理 (資本費・処理費)
その他	0	バイオマス袋仕入
合計	372,517,159	

①現在の可燃ごみを生ごみ（週1）と可燃ごみ（週1）に分別
（令和7年度想定）

B:生ごみ・可燃ごみ (週1・週1) 円/年	コストリット B-A 円/年	理由
116,435,488	0	現在と変更なし
18,166,192	0	現在と変更なし
9,543,496	0	現在と変更なし
0	-5,658,948	ダンプ方式のサライセンターになり、クレーン点検・修繕・消耗品減
115,480,800	-107,232,236	広域処理による処理単価の減、生ごみ処理による可燃ごみ運搬費の減、ごみ量の減
22,854,986	22,854,986	
0	0	現在と変更なし
282,480,961	-90,036,198	

②現在の可燃ごみを生ごみ（週2）と可燃ごみ（週1）に分別
（令和7年度想定）

C:生ごみ・可燃ごみ (週2・週1) 円/年	コストリット C-A 円/年	理由	課題・調査研究事項
154,243,373	37,807,885	収集回数増に伴う職員5人増	収集の直営・委託の検討、労働組合交渉、収集コースの効率化及び必要人数の再確認等
30,113,988	11,947,796	収集回数増に伴うバックカー車1台・軽ダンプ車1台の維持管理費増、収集員の消耗品費等の増	1台の車両で同時収集できるバックカー車両導入の検討、DX導入による収集効率化の検討（収集・ごみ出し状況の把握等）
9,543,496	0	現在と変更なし	正規職員5人増に伴う会計年度任用職員の人数等見直し
0	-5,658,948	ダンプ方式のサライセンターになり、クレーン点検・修繕・消耗品減	-
115,480,800	-107,232,236	広域処理での可燃ごみ・生ごみ処理費等の減、可燃ごみ運搬費の減、ごみ量の減	事業系ごみの適正分別及び資源化（バイオガス化等）の検討
22,854,986	22,854,986		生ごみ資源化処理施設運営の直営・委託の検討
12,698,400	12,698,400	バイオマス90%袋を週2枚、年間52週、1,560,000枚/年の購入費増	無償配布か販売かの検討、袋サイズ、配布コスト、在庫保管コスト、販売手数料等の検討、広告費等での蔵入の検討
344,935,042	-27,582,117		

※1 可燃ごみ搬出事業については解体を見込む前の通常稼働時のクレーン修繕費としたため平成28年度～平成30年度実績の平均で試算

※2 生ごみ処理については、現状の可燃ごみ処理と比較ができるように、廃棄物資源化処理事業で仮定し、人口割単価で試算

その他補足事項：分別率向上、分別によるごみの減量でコストさらにコスト削減に期待